

府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会々報
2016年 新年号 1月13日発行 通巻59号
発行人：竹内 章（府中市分梅町）
TEL 042-364-3428

2015
田んぼの学校

収穫祭
修了式

収穫したお米のオニギリは美味しい！

収穫祭・修了式に123名参加

「田んぼの学校」(府中市受託事業)の収穫祭&修了式が、11月8日(日)に開催されました。123名の参加者が、心をあわせた楽しい収穫祭となりました。

日時	11月8日(日) 9:30~13:30
会場	中央文化センター
参加者	総計123名
・生徒29名、保護者50名	計79名
・来賓・ボランティア・スタッフ	計44名
府中市副市長 生活環境部長 課長 職員	5名
国立大学法人 東京農工大学	12名
都立府中東高等学校 生物部	8名
田んぼの学校ボランティア	3名
府中かんきょう市民の会	16名



写真入り修了証の授与式

農工大 大里先生、吉野副市長が祝辞

収穫祭・修了式は、朝9時30分に受付が始まりました。生徒と保護者の皆さんは、受付後オニギリづくり、豚汁作り、会場設営に分かれ準備を開始しました。10時からは、府中東高生によるバルーンアート、塩づくりの紹介や折り紙、将棋、針金アメンボ作りなど、楽しいイベントが続きました。

11時30分、収穫祭・修了式が開会されました。主催者の市民の会竹内理事長の挨拶、農工大の大里先生、府中市の吉野副市長からのご祝辞の後、今坂生活環境部長が呼びかけ、全員の「いただきます」で、食事会が始まりました。会場は「美味しい」との声であふれました。自分が田植えを行い、自分が握ったオニギリの味は、格別でした。具だくさんの豚汁も大好評。楽しく和やかな食事会となりました。

食事の後は、記録ビデオの上映会、バケツ稲観察講評が行われ、絵日記作文の発表では、「親子が一緒になれてよかった」の声が続きました。写真入りの修了証が授与された後、農工大の福田先生、市の前島環境政策課長から講評があり、多くの思い出を残し、収穫祭は終了しました。

「若い力のサポートに感謝！」

一柿本正夫 田んぼの学校実行委員長談一

今年は昨年に続き府中東高生が毎回(試験前を除く)10名近く、農工大生が 耕地の会の方を中心に4~10名が参加、若い力が田んぼの学校運営を強力にサポートしてくれました。収穫祭では保護者の方々にも豚汁、おにぎり作り等に応援頂きました。ありがとうございました。次回からは計画段階から密接に連携が図ればと思います。

(村崎啓二)

力をあわせて「大豊作」…昨年の5倍の収量

今年で10回目の開催となった田んぼの学校は、5月の開校式・田植え、7月の草取り・生き物さがし、9月の稲刈り・ハサかけ、10月の脱穀・モミすり、そしてこの日の収穫祭・修了式の計5回、行われました。5回中、3回が雨のなかの学校となりましたが、それだけ自然の恵みの大切さ、お米作りの苦労、皆が力をあわせることの尊さを、44名の生徒(小学生中心)と保護者の皆さんが体験することが出来ました。

今年の稲の収量は102kgで昨年の22kgの約5倍でした。苗密度を2倍、苗の本数を3本に増加、防鳥ネットを張ったこと等の成果です。もちろん、雑草取りなど、参加者の地道な努力が「大豊作」につながりました。



自分たちで作ったお米でのオニギリと
具だくさんの豚汁を頬張る食事会

田んぼの学校2015

脱穀、モミすりの巻

脱穀日前の1週間は秋晴れが続いていたが、あいにく脱穀・モミすり当日(10月11日)は未明から小雨予報。今年の田んぼの学校は雑草取り・生き物さがし(7月6日)に続き、4回中2回が雨に見舞われる。雨天の場合は屋外での作業ができない。

農家の場合は作業日を延期するが、田んぼの学校では延期が難しい。雨予報に備えて脱穀日前日急きょスタッフに声をかけ、天日干し中の田んぼの稲束をハウスに移動して、当日の脱穀・モミすりに備えた。



脱穀

天候に左右される
たとえば、稲刈り(9月27日)後、脱穀まで、わずか2週間の間には前例のない爆弾低気圧が日本列島を襲い、全国各地で農作物に被害が出た。田んぼの学校のハサかけ中のハサも倒壊するのではと気をもんだが幸い被害を免れた。

自然乾燥で美味しいお米になると言われる天日干しだが雨よけシートがけ、防鳥ネット張り、天気をにらみながらの脱穀・モミすり作業と「大変な手間をかけている！」とあらためて農家の大変さを感じる。

小雨の中での開校となり、生徒の出足は鈍い。開校時間の9時になっても数人が登校しただけでどうなるかと気をもんだが徐々に増え、最終的には生徒29名、保護者27名。稲刈りと同数の参加で心配は杞憂に終わった。生徒は熱心である。

ハウスの中での開校。生徒、保護者、スタッフ合わせて71人の大人数が狭いハウスに入り、15分遅れで開校。生徒に人気のピョピョさん体操は諦め、場所を取らないストレッチに切り替える。ストレッチが終わったら早速、脱穀・モミすり体験である。

脱穀機、モミすり機は屋外作業を想定して各2台予定していたがハウス内での実施となり、各1台のみ、狭い場所に脱穀機、モミすり機2台を並べる。1台で生徒全員が体験するには時間がかかり所要予定時間1時間15分に対し30分余分に時間がかかり、1時間45分要した。ハウス内に取



モミすり

り込んだ稲束はまだ半数以上を残していたが残りはスタッフ、東高生、農工大生が担当することにし、生徒が解散後、ひたすら脱穀、モミすり作業に従事し、1時間強延長し13時に完了した。



一升瓶を使って精米

さらにすりこぎと一升瓶を使った精米を実施。また、チョウ飛行機、アメンボ制作、田んぼに生息するスズメガの幼虫、カマキリの卵の談議で盛り上がった。

アンケートでは、「脱穀機とモミすり機を使う時が楽しかった。手動と電動の違いの面白さ、大変さを学んだ。人手による脱穀、ゴルフボールを使ったモミすりが楽しかった。精米するまでの大変さがわかった。お米を大切に食べないといけないと感じた」等々、回答者全員が楽しかったと答えていた。

バケツ稲で3000粒以上収穫があった人。バケツ稲で育てた稲を持参し脱穀機・モミすり機で玄米にする人。自宅での脱穀・モミすり方法を再確認する人。モミを来春まで保管し、苗作りから再度バケツ稲に挑戦したい。苗の作り方を教えて欲しい等々、ハウス内ではいろいろな会話が飛び交った。バケツ稲体験、人手による脱穀・モミすり体験の重要さを改めて感じた。



チョウ飛行機に色づけ

脱穀番外編

開校日当日に脱穀・モミすりが終わった玄米は全体の2/5で39kg、田んぼの中にそのままに残っていたハサかけ中の稲束は天気の回復を待って3日後の10月14日に実施した。

急な参加要請にも関わらずスタッフ9人が集合。脱穀機、モミすり機各2台を準備し、フル稼働。脱穀後の藁ゴミを除くのに目が粗い金網、風で飛ばすのに扇風機を持参するなど、アイデア続出。3時間弱で無事完了。玄米収量は63kgで、前回分と合わせると102kgになった。

収量102kg/縦27m、横12mの広さは10アールあたりに換算すると300kg強、東京都の2014年度の平均収量が400kg強/10アールなので約75%の収量となる。田んぼの学校としては上々の収穫量だった。(柿本正夫)

こだいらソーラー 見て歩き！市民共同発電所

府中市内では、屋根に太陽光パネルを乗せて発電をしている家を時々見かけます。たまたま見たチラシに「市民共同発電所」「エネルギーの地産地消」と書いてありました。これって何なのでしょう。そのような疑問を抱えながら、「NP0 法人こだいらソーラー」主催の2015年10月17日の「見て歩き！市民共同発電所見学セミナー」に参加しました。



市民共同発電所1号機の建物

JR武蔵野線 新小平駅に集合。簡単な挨拶の後、すぐに市民共同発電所の3号機「未来」へ向いました。ここは障がい者介護施設で、2015年1月から発電を開始しました。陸屋根（平らな屋根）を年間2万円で20年間、「こだいらソーラー」に貸しています。「こだいらソーラー」は240Wのパネル56枚を屋根にのせて発電し、売電価格は34.56円/1kWです。この発電用容量13.44kW/h。

次に市民共同発電所2号機「やまびこ」を見学しました。ここは保育園と小規模多機能サービス施設を併設した施設で、2014年12月に発電を開始しました。240Wのパネルが43枚設置され、発電容量は10.32kW/hでした。

最後に見学したのは、市民共同発電所1号機で2013年2月に発電を開始しました。3階建ての事務所と集合住宅の屋上に200Wのパネルが60枚設置され、発電容量は12kW/hです。売電価格は43.2円/1kW。2013年まで実施されていた住宅用の太陽光発電の10万円の補助を利用し、余剰電力を売電しています。屋上60枚のパネルが並んでいる様子は壮観でした。

きっかけ

小平市は2009年にエネルギービジョンを策定し、自然エネルギーの推進、とりわけ太陽光発電日本一をめざすと掲げています。この策定に市民委員として加わったメンバーが、その策定に向けて力を注いでいたところ、2011年に福島第1原発の事故が起こり、現在の一極集中的なエネルギーシステムの転換が必要であることを、多くの市民が痛感することになりました。

エネルギーシフトの取組みに目覚めた市民が集い、地域社会に根ざした再生可能なエネルギーによる地域分散的なクリーンなエネルギーを推進し、地域のエネルギーの自給自足を少しでも実現していくことをめざして、この会を立ち上げました。できるだけ多くの市民の理解と賛同を得て、市内にできるだけ多くの太陽光発電所を設置していきたいと考えています。(ホームページより引用)

資金

「こだいらソーラー」の資金調達方法は、市民の間の貸借の範囲でお金を集める「擬似私募債」というやり方を取り、お金の返却期間などを明記した証書を取り交わします。計算上では20年で私募債の返却が終わる仕組みになっています。

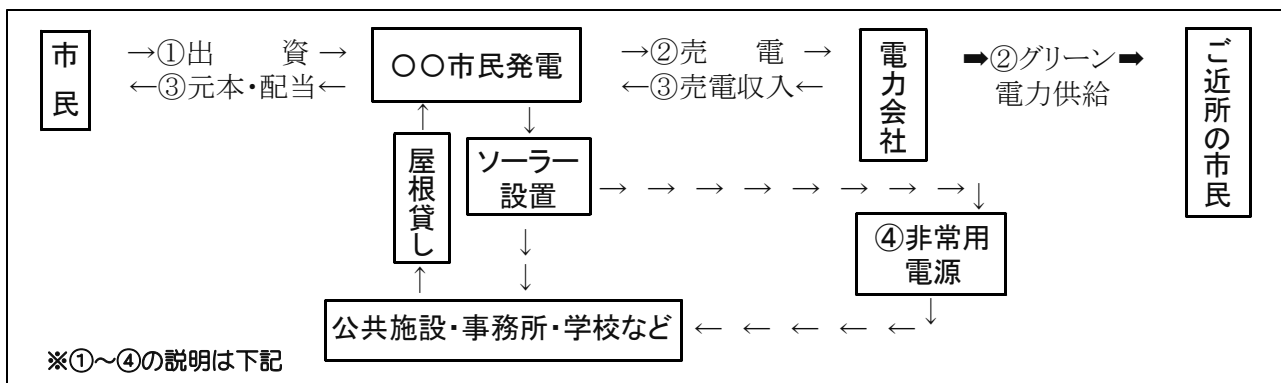


太陽光パネルを見学

仕組み

見学の後、1階の集会室で「こだいらソーラー」理事長の都甲(とこう)公子さんから制度の仕組みが説明されました。(下図参照)

当日の参加者の一人は、「脱原発をめざして自宅では太陽光発電をしています、もっと普及させたいので出資している」と話していました。そのような出資者の熱い想いを集めて「こだいらソーラー」は運営されています。(梅沢みどり)



①市民の出資で太陽光発電を設置⇒自宅に設置できない人も参加可能

②発電したグリーン電力を近所に供給⇒地域の節電に貢献

③売電収益を出資者に分配⇒(多分)貯金よりもチョットお得(元本保証は無し)

④停電時も少し使えます。⇒非常用として

⑤ 固定価格買取制度

再エネによる売電を一定期間、固定価格で買い取る制度。設置費用の低下に合わせて買い取り価格を下げていく。

10kW未満・・・期間10年。余剰買取。11年目以降は未定。

10kW以上・・・期間20年。全量買取。

第2回 西府崖線(ハケ)周辺の 歴史・自然遺産めぐり

主催 府中かんきょう市民の会 (西府崖線湧水保全チーム)
 開催日時 平成27年11月23日(月) 午前10時～12時
 開催内容 JR南武線西府駅～分倍河原駅までの約5kmに
 点在する歴史・自然遺産を、かんきょう市民の会
 会員が説明しながら徒歩でまわる。
 ルート JR西府駅南口①御獄塚古墳→②西府湧水→③
 あずまや→④かっぱ池→⑤本宿町緑地→⑥天王
 宮八雲神社→⑦元応板碑→⑧高倉塚古墳→JR
 分倍河原駅前⑨新田義貞公之像
 参加者 府中市民(一般参加13人、会員7人)
 参加費用 200円(資料代として)
 ※西府崖線とは、特に府中崖線の西南部をいう。

勤労感謝の休日、西府駅
 改札前に集合し、ルート順
 に説明しました。
 説明は①～③が進藤礼
 治郎、④⑤⑦が小西信生、
 ⑥⑧⑨が竹内章でした。
 天候は曇り、午後からは



小雨でしたから、幸運だ
 ったといえるでしょう。気
 温は10～13℃で、風は
 ありませんでしたが、11月
 としては肌寒い気候でし
 た。
 今回は資料代として200
 円をいただきました。資料

を綴じたレールホルダー代が50円、ハケの生き物カラー図
 版の写真を含めて8枚(A4判13ページ)の資料を作ったこと
 によるもので、収益に結びつくものではありません。

また参加者は、20代の女性から、80代の男性まで幅広い
 参加があり、初めてこう
 した行事に参加した方か
 ら、何度目かという方も
 いらっしやいました。家
 族でご参加のグループ
 もありました。



ルートは、自然と歴史
 を組合わせたもので、配
 布資料もオリジナルなものが多かったの
 で、参加された市
 民は大いに満足した行事になったようです。(小西信生)



—写真説明—
 ①分倍河原駅前の新田義貞公之像を背に、参加者全員で記念撮影
 ⑥⑨進藤案内人(御獄塚古墳)⑥④小西案内人(市川緑道あずまや)
 ⑥⑦竹内案内人(高倉塚古墳)

秋の清掃活動に参加して

第9回清掃活動が10月24日(10:00～11:30)に西府崖線
 で実施された。参加者は29人。その中で今回は、NEC府中事
 業所内にあるIT関連の会社、(株)KSKの安藤信弘さんに寄稿
 していただいた。KSKの皆さまは自主参加である。(編集部)



清掃作業終了後、
 参加者全員で記念撮影

今回はKSKの有志6名で参加しましたが、私は初めての
 参加でした。班分けを行い担当する場所へ行く途中、班の
 人から周囲の環境について色々教えていただきました。
 日頃の業務では周囲の環境など知る由もなかったの
 で、非常に参考になりました。そんな周囲の変化を学びつつ清

掃活動をするのも、楽しいものだということを感じました。色
 々な話を聞かせていただき、ありがとうございました。

さて清掃活動ですが、担当する場所に着いたものの拾え
 るゴミは少なく綺麗にされていました。更に進むと用水路を
 囲む雑木や茂みがあり、チラホラとゴミらしき物が見られま
 した。これらのゴミは昔の物のようで、雑木の伐採などで目
 につくようになった気がします。

結果的に拾えたゴミのほとんどは、用水路の周囲の雑木
 や茂みの中からでした。これらは誰にも気づかれずに放置
 状態になっていた缶やビン類で、最近捨てられた物はあま
 りありませんでした。それを考えると、草木の枯れる冬の初
 めとか、新芽の出る前の春先が集め時のような気も・・・でも
 寒そうですね。

そんな中で気づいたのは、用水路で小魚が泳いでいたこ
 と。仲間の話では、「ハヤの稚魚」ではないかということでした。
 その他にも「エビを見た」という人もいて、こんなに自然
 が戻りつつあるのも皆さんの活動成果だと思います。

参加した皆さんは和気あいあいとしていて、色々な意味
 で有意義な清掃活動ができたと思っています。機会があれば
 引き続き参加したいと思いますので、今後ともよろしくお
 願いいたします。

国分寺市
主催

府中崖線の自然と市の史跡を訪ねるツアー

平成27年10月30日(金)に、国分寺市からの依頼により「府中崖線の自然と府中市の史跡」を案内いたしました。

この企画は、「国分寺市もとまち公民館」の主催で、同公民館の「環境・自然をテーマにした市民学習会」として開催されたものです。

国分寺市では、密接な係わりのある近隣市に残されている、自然や環境保全の最前線を見学・学習し、貴重な自然を大切にする契機とする事を目的に、過去、浅間山や多摩霊園、国立市の矢川緑地などを見学しています。

同公民館の職員が、当会のホームページで「西府崖線の環境保全活動」を行っている事を知り、依頼してきたものです。



東京の名湧水57選の「西府町湧水」

介いたしました。

この後、市川緑道を通り、新田川緑道にある「分倍河原古戦場碑」の前で、新田義貞軍と北条軍が鎌倉幕府の興亡をかけて戦った経緯を説明し、下河原緑道を經由して「郷土の森」で昼食タイムを取り、さらに、矢崎町にある「三千人塚」と府中本町駅前、「国司の館跡」と「徳川家康の御殿跡」について案内し、無事予定時間内に修了する事ができました。

参加された国分寺市民16名からは、全体を通して90%の方から「よかった。とてもよかった！」との回答があり、さらに「説明が詳しく、とてもわかりやすく府中の歴史がよくわかりました。また、市民にとっては住みやすい街であると感激しました！」講師の方の説明が府中市の多方面にわたっており、興味深いと思いました」など、大変好評であった事が主催者からの礼状と共にアンケート調査結果が送られてきました。



八雲神社にて

平成27年の8月下旬に、市の職員と見学コースなどについて詳細な打合せを行い、環境や自然保護および崖線沿いに残されている市の史跡などを組み合わせて、コースを決定しました。

当日のコースについて、約20頁の説明用資料を準備し、時間内で回れるか実踏し、何とか指定の時間内で回れることを確認しました。

見学した主なコースは、集合場所のJR南武線の府中本町駅から出発し、「善明寺」、「高安寺」を巡り、分倍河原駅前の「新田義貞公之像」を見学した後に「高倉塚古墳」、「八雲神社と元応の板碑」を案内し、西府駅前の「御嶽塚古墳」で小休止。ここまで約2時間近くかかりました。

ここから、自然環境を中心に、東京の名湧水57選の一つに選定されている「西府町湧水」で、当会が府中市の委託を受けて、約10年前から「湧水量と水質調査」を行っている事や、この近辺一帯の「西府崖線保全活動」として、樹木の名札付や野鳥を含めた動植物の調査を行っている事と、一般市民を対象に「わき水まつり」を開催し、市民に貴重な自然遺産である崖線の素晴らしさをPRしている事などを紹



御嶽塚古墳にて

最後に、国分寺市の職員から「府中市は、自然環境・史跡の保全・整備と、まちづくりの調和ができていると関心いたしました」との感想が付け加えられていました。(竹内章)

身近な資材と最先端の技術

農業資材 見本市レポート

国内最大の農業関係の見本市が、2015年10月14日～16日まで幕張メッセで開催された。そこには、“農業に関する最新の製品とサービス”が一堂に集められていた。

主催は、開催業種を40種以上持つ日本最大の国際見本市開催会社、(株)リードエグジビションジャパンである。(編集部)

1 農薬 収量増加 殺菌など

1-1 マイクロバブル、ナノバブル※1(日本システム企画 小池酸素工業 アスプなど)

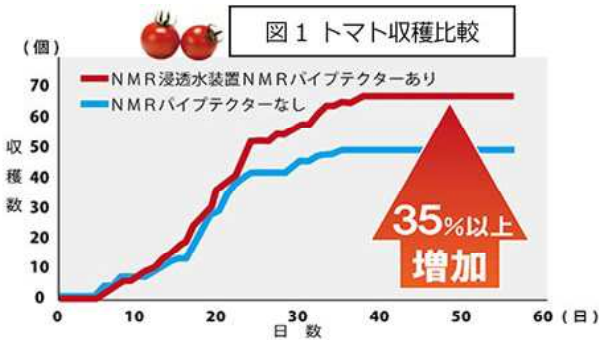
気泡が50μmΦ※2 >/マイクロバブル、数10Φnm>/ナノバブルと呼ばれ、気体が液体に溶けやすく、表面積比が大きいことを利用し、化学・医療・水浄化・農業等々の開発が進み、13年に日本マイクロ・ナノバブル学会が発足した。

◆酸素ナノバブル…水耕栽培すると、植物が根から吸い上げる水や養分の量が増えて、果実が大きくなったり、土中の微生物が活発化する。◆オゾンナノバブル…水田の用水路に供給したところ、無農薬・無肥料でも雑草が生えず、米の収量も変わらなかった。◆空気ナノバブル…農産物の育成促進、鮮度維持に優れた効果を発揮する。気泡発生装置の技術は、日本は世界の先頭を走っている。

1-2 核磁気共鳴による収量増加(日本システム企画)

水に対してNMR共鳴※3を起こすと、水は6時間以上小さな凝集を保ち、水の浸透性は向上する。ミニトマト・キュウリ…35%以上の収量増加、またNMR共鳴浸透水を使用すると菌が減少することによる「根腐れ」を防止する。(図1)

1-3 微酸性電解水による減農薬実現システム(東亜化学) 「うどんこ病」「べと病」「灰色カビ病」の殺菌ができ、人体に安全な殺菌水である。



2 農業「IoT」(PSolutions/日立製作所 NEC NTTドコモ ソフトバンクグループなど)※4

ハウス栽培において農地に取り付けたセンサーで読み取った日射量や土壌の状況をもとに土壌水分や温湿度などのデータ収集から分析、ネットワーク、クラウドも活用、水・肥料の量や供給のタイミングを計る。栽培の「レシピ」化、圃場モニタリングで、より効率的な生産が必要な農業分野では、IoTの重要性が高まっている。(図2)

3 植物工場(パナソニック 三菱化学 昭和電気 KKみらい 千葉大ほか多数)

14年3月現在で太陽光…185か所、人工光型…165か所、併用型…33か所あり拡大傾向にある。光の強さ・色・温度・湿度・二酸化炭素量等を制御することで、安定的且つ高速栽培技術により、栽培日数を大幅に短縮することで効率アップが図られる。野菜の味・食感・栄養も制御することが可能。熱源、省力、作物の種類拡大が今後の鍵を握る。(食味/パナソニック) (図3)



図2 e-kakashi。各種センサーを差し込んで電源スイッチを入れればすぐ稼働する。雨や雪、夏の日差しにも耐えるタフネス性能



4 solar sharing ※5 (エスパワー 丸文 スマートブルーなど多数)

ソーラーパネルと空スペースを1:2の比率で設置すると、下の農作物に当たる太陽光は約35%減少することになるが、作物に影響はない。「光飽和点」の観点から有害な光を遮ることができる為、収量は増加する。(長島CHO研究所 所長) (図4)



図4 農業と自家発電事業を両立させて、これからの日本の農業を救うものとして注目を集めている。

5 食の総合化/6次産業化

5-1 設備と指導(福島工業kk)

1次産業/温度管理・貯蔵設備、2次産業/温度や衛生管理・空気調和・HACCP※6・加工設備・IT、3次産業/店舗・厨房設計・施工・空気調和・エネルギー管理。全工程のフードコンサル。(図5)

図5 6次産業の市場規模

事業形態	市場規模 (兆円)
農産物の直接販売	0.69
農産物の加工	0.51
観光農園、レストラン等の事業	0.01
計	1.21

(農協新聞)

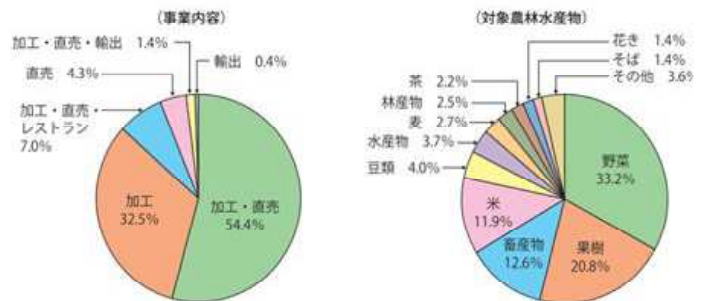
5-2 食品の乾燥加工(大紀産業)

農業の6次産業化に伴い、安全・安心な国産農産物の規格外品やロス品の有効活用として幅広く注目されている。また。パウダー化することで、更なる用途拡大期待されます。その意味で、「乾燥」が注目される。ドライフルーツが簡単に製造できる。

- ※1 マイクロバブルは100万分の1mの気泡。ナノバブルは10億分の1m。
- ※2 50 μmφ=0.05mm。読み方は50マイクロメートルファイ。φ(ファイ)は直径、バブルは気泡を意味。
- ※3 NMR共鳴 nuclear magnetic resonanceの略 核磁気共鳴 水分子は磁場の中に置かれると水分子の凝集が小さくなる(マイクロバブル化)この現象の活用。
- ※4 「IoT」とはInternet of Thingsの意味で、従来は主にPCやサーバー、プリンタ、スマートフォン等のIT関連機器が接続されていたインターネットにそれ以外のテレビやデジタルカメラ、各種センサー、機械類等の”モノ”を接続して、情報を収集して可視化する技術。

- 5-3 講演「農業の成長産業化の切り札！ 6次産業化政策最前線」農水省食料産業局長 桜庭英悦氏
農水産省では、6次産業化の推進が農業の成長産業化であるとして政策を充実推進。
- ・11年農林水産物及びその加工、販売を一体的に行う取組を創出することを目的とした「六次産業化法」が施行。
- ・総合化事業計画(図6)の認定者は、6次産業化プランナーによる総合的なサポート、無利子資金償還や据置期限延長、低利運転資金貸付け、商品開発・販路開拓等に対する補助、加工・販売等施設整備に対する補助、成長産業化ファンドからの出資を受けることができる。
- ・生産(1次産業)の企業化が400社を超え、農産物の輸出が増大している。日本食の評価が高まり海外の日本食レストラン数が8万軒を超えたなどと披露し、農業者の努力を訴えた。

図6 総合計画の認定状況



- ※5 Solar sharing 光飽和点
太陽光の分配化(ソーラーパネルと植物の光合成、双方に利用する)過剰な光はかえって植物にマイナス効果を生じるので、その回避にも役立つ。原産作物にはこのようなことはない。
- ※6 HACCP Hazard Analysis Critical Control Pointの略
危害分析重要管理点方式。食品の衛生管理のプログラム

(竹田 勇/渡部敏郎の共同執筆)

市民協働まつり つながりフェスタ



府中かんきょう市民の会のブース

第1回府中市民協働まつり「つながりフェスタ」が、11月21日22日の10:00~16:00まで、府中グリーンプラザ、府中駅北口広場、フォーリスで開催された。主催は府中市と府中NPO・ボランティア活動センター。

当会の参加日は21日。ブースは昨年引き続き府中グリーンプラザ6F。会員の協力者は9人、ブースへの来場者は昨年とほぼ同じ60人。

このフェスタは、府中市にとって最重要課題である「市民との協働」を市民に直接アピールするためのものである。昨年までの名称は「府中NPO・ボランティアまつり」だったが、今年から名称を上記のように変え、さらなるパワーアップを目指しているようだ。

我が国は世界に例をみないスピードで「少子高齢化」への道を進んでいる。そのような状況下において、「市民との協働」は府中市にとって賢明な施策だ。

このフェスタによって、多くの方が「市民活動」あるいは「市民協働」への関心を持ってほしい。一方、市も市民あるいはNPO法人などの目線にたって協力・協働していくことが喫緊の課題となる。そのためには、職員の意識改革も必要になるだろう。そうすることによって、より「つながり」が深まるのではないかと。(葛西利武)

命の讃歌
コンサート

福島を忘れない！！

2015年府中市市民提案型協働事業

昨年7月26日、府中の森芸術劇場ふるさとホールで、「命の讃歌コンサート」が開催されました。主催は「命の讃歌コンサートの会」。このコンサートは社会に暮らす子供、若者、高齢者、障がいがある人、いろいろな人が生き生きと輝いていこう、と始まりました。副題は、「生きていることは素晴らしい共に手をつなぎ明日へ」です。

今回のテーマは「福島を忘れない」。2011年3月11日から4年半が経とうとしている今、私たちは福島を忘れてはいないか。あの原発は私たち首都圏の人間の暮らしを支えるためにあった、福島原発メルトダウンの衝撃、福島の人々の苦しみ、忘れてはいないか。もう一度、福島を見つめ直そう、福島の方たちと共に歩こう、とテーマが決まりました。



平和、反原発を訴え続けてきたグループが歌で、朗読で、福島を語る。障がいのある方たちが、ダンス、歌で生きることの素晴らしさを現わす。

そして、福島県いわき市から迎えたフォークソンググループ「いわき雑魚塾」。「～でれすけ(愚かな)、でんでん。ごせやげる(腹が立つ)。でれすけ、原発もおいらねえ。原発ぶつとんで、放射能ぶんまいで、ジジババと住んだおら家、おっ

とばされた～」と唄いました。写真「いわき雑魚塾」

普通の生活を送っていた様々な職業の12人が集まった「いわき雑魚塾」は、3・11以降の福島を歌にしています。住み慣れた街から出る事を余儀なくされ、いまだに帰れない。その苦しみを福島弁で訴えます。



指揮者のもと、福島への思いを込め熱唱する合唱団

もう一度「福島産」を復活させるため尽力している方、市内外の作業所の物販等、沢山の出会いがありました。「府中かんきょう市民の会」の元会員の勝谷寛子さんからは、福島の写真をお借りしました。その写真に見入る人、写真の前で写真を撮る人。多くの人の思いが福島へ、福島へ、と向かったひとときでした。

最後は、舞台と客席が一つになり、昨年末に亡くなった弱い者の味方のフォークシンガー笠木透さんの歌を唄いました。「ぺんぺん草よ、語れ語れ、名もない人たちの歴史を語れ、いつか原発がなくなりますように、いつか核がなくなりますように、いつか戦争がなくなりますように」と。

自然エネルギーを
考える会主催 「日本と原発」上映会

昨年5月13日、16日の両日東京農工大学において、「日本と原発」の上映会が行われた。この上映会は、「自然由来の再生可能エネルギーの可能性を学び、自然エネルギー社会を目指している」府中市社会教育関係団体である「自然エネルギーを考える会」が中心となり実行委員会を重ね準備を進めた。

13日は119名(学生17名)、16日は165名(高校生10名)の参加があり、16日は満員だった。また、学生に是非見てもらいたい、「自然エネルギーを考える会」の宮井さんの尽力で、農工大での上映にこぎつけたのは素晴らしい成果であった。

東日本大震災に伴う福島原発の事故から4年経っても依然改善されない状況があるなかで、開催された上映会には大きな意義がある。東日本大震災の被害の甚大さ、福島原発メルトダウンの衝撃、その後の状況等を忘れかけている私たちをこの映画が今一度覚醒させた。

話題の映画
「日本と原発」

監督：河合弘之 / 構成・監修：滝澤龍一 / 脚本協力：木村浩 / 制作 2014年 / 135分
なぜ、弁護士がドキュメンタリー映画を作らねばならなかったか？
伝えたいのは隠された真実
丸2年の歳月をついに自分の眼で、耳で確かめた。

5/13(水) 午後4時半開場 5時上映開始
5/16(土) 午後1時半開場 1時半上映開始

この日ゲストで出演者の木村浩さんのお話があります。

参加費：700円
ただし5月13日は学生等のみ300円
定員 100名

申込み・問い合わせ：電話 090-7189-1591(宮井)
FAX 042-388-1717 メール j-miyai@aa.plai.jp 申込み優先します。

主催 自然エネルギーを考える会(府中市社会教育関係団体)
共催 農工大で映画「日本と原発」を制作する会/新入生を歓迎し農工大で映画を観る会

全国の「原発差し止め訴訟」を率いる河合弘之弁護士が作成したドキュメンタリー。「口で言っても、裁判をやっても伝わらない。だから、原発の全てが分かる映画を作った」。

福島原発事故で避難を余儀なくされた方々の苦しみ。汚染地域の現状。反原発、原発推進派を含む色々な人のインタビュー、原発の歴史、経済、社会的な問題点、方向性を明らかにした。原発をこれほど多くの視点から捉え、事実を多角的に積み上げた映画は無い。「脱原発は必ず実現できる」、河合弁護士の信念が画面から飛び出してくるようだった。

農学部2号館の映画子ラシ
「日本と原発」の映画子ラシ



この夏、「安保法制」に反対するデモ、集会で国会前に行くたびに、河合弁護士の「日本が減びるとしたら、それは原発事故か戦争である」との言葉が、私の頭の中をよぎった。

(前川浩子 2題)